



新式百譜
全

伊地知文庫
文庫20
344



隆吉の

月社園

稿

集

心づゝるの宿をいふはるかに
見ゆふいとくろくろくす

誹詔新式序

伊地知氏書冊

連致名中式目は後乃定め至く決りしと
志し流と中。建治の式目は鑑念最る存あり
為相之の述作ありしと大納を考最つての投考
せよせよいと指し新式の中号しれたるは
かゝる彼先書乃舊式目は對し々の名あり
けりし。そ後わつといく。應安よ昔先書及ん
筆削享通し。後書思も及れ追加するさ
おくの後勅とらえら道。其かきらくにこれ
混雜いんをを海くうさりをさ。あつて見

不惑



此の毎は。後かあるやいといふ。一として。文意は
牡丹花道。遠慮あや。合神の今案ふ。今此形
式追加等の世なと定らざる。とせん。とせん
我が乃乃授い。松永真徳の目おせたる。式あり
ふこと。彼世々の四般に指さう。終一り。一般ふ云
わく。山乃本食と人。ま教ふる。是と一り。一り
ひとて。舊形乃式と指ひ。今古の格と一り
あけり。形といふは。まを以て。之才。あてり
世は。終一り。まひつる。まを以て。といふ。まの。終
分毫のまひ。ま。ま。馬か。あ。ま。あ。ま。と。傷

え。一。と。名と。階。極。れ。終。よ。あ。せ。法。と。新。式。か。ん
形。よ。考。つ。ひ。て。此。後。ま。終。ふ。一。と。終。好。り。物。の
杖。と。を。指。さ。し。や。ま。と。多。人。始。と。杖。折。り。道。を。是。を
ゆ。て。一。と。終。な。る。の。由。終。い。く。と。月。い。く。と。く
と。一。と。い。つ。る。と。知。と。と。噴。毛。吹。狗。子。山。井。等
此。の。一。の。文。字。に。わ。く。の。い。わ。り。乃。乃。及。と。も。つ。と。今。の
俗。と。め。と。一。と。せ。と。や。乃。乃。と。一。と。あ。く。流。波。後。者
山。の。ま。れ。ま。か。の。も。ふ。つ。が。ら。く。終。終。又。一。と。一。人
ま。ま。と。終。い。終。ま。え。り。ひ。出。る。ま。の。案。を。お。う。れ
む。な。れ。つ。り。い。つ。ら。ま。い。り。と。げ。ら。ぬ。は。と。を。ふ

誹諧新式目録

能諧之甚なるや書、何々のや 全稿

一丁々

句と求家ののり抄 并立圃歌

二丁々

又のやんはば 古智授と引の

三丁々

古義怪論 法家口交引の引白

四丁々

四季の詞 浮に用就熟字甘お下

五丁々

二月の詞 年中のり多事申る物と云ふ

六丁々

三月の詞 日

七丁々

四月の詞 日

八丁々

又月の詞 日

九丁々

六月の朔日	四十八丁
七月の朔日	五十二丁
八月の朔日	五十七丁
九月の朔日	六十二丁
十月の朔日	六十七丁
十一月の朔日	七十二丁
十二月の朔日	七十八丁
切字乃祝 <small>今梅并合致引白</small>	七十九丁
神祇の朔日 <small>乃賀の朔日 瑞字</small>	
恋の朔日	

連懐の朔日 <small>懐舊の朔日 今梅</small>	八十二丁
表傷 <small>今梅 五字 瑞字</small> 人傷の朔日	同丁
那人傷 <small>日 表 今</small>	八十二丁
那表 <small>今</small> の朔日	八十二丁
編小又新 <small>今</small>	同丁
牙 <small>今</small> の朔日 <small>今</small>	八十二丁
句 <small>今</small> の朔日 <small>今</small>	八十二丁
今 <small>今</small> の朔日 <small>今</small>	八十二丁
今 <small>今</small> の朔日 <small>今</small>	八十二丁
今 <small>今</small> の朔日 <small>今</small>	八十二丁
今 <small>今</small> の朔日 <small>今</small>	八十二丁

あるものんぬらる。

去るものひ相よせ 略すい

ろ はの相もろ

にの字れら

ほ乃字

への字

とらん字

らの字

りぬ乃字

るとの字

九十二

九十四

九十八

九十九

百一

百二

百三

百四

わの字

百五

かの字

百六

よの字

百七

たの字

百八

れ乃字

百九

ろの字

百十

つの字

百十一

ぬらん字

百十二

なの字

百十三

らの字

百十四

ひの字
うの字
ぬの字
のれ字
ねの字
くの字
やの字
まの字
けの字
ふの字

百十九
百廿
百廿一
百廿二
百廿三
百廿四
百廿五
百廿六
百廿七
百廿八

この字
はてあ
さの字
さの字
ゆの字
ぬの字
みの字
しの字
あひ
もの字

百廿九
百三十
百三十一
百三十二
百三十三
百三十四
百三十五
百三十六
百三十七
百三十八

せの字

百四十九

寸乃字

百五十五

得和得指要引白平及甘番成

百六十二

入款字者畧今指

百六十八

得和の小式向を對向式

百六十八

傳紙屋歌乃亦

百六十八

新義仁十新

百六十八

和歌乃とんよせ

百六十八

心八十五ヶ條

凡例

一 一書一先記誦譜の四字義と出のり世小
 中より出のり終一玉為和字彙彙の
 端小見わ〜誦音ハイあぬ〜と義小
 あり了角れ童蒙ら所見の受分ふたは
 とふく和く人篇と用ひ了名小習歌を
 の又多しけゆへ先師真酒立園乃ん銀
 とり〜進分の後見と記〜地道乃ん眞
 秘沢歌一終ら後字〜色に假〜言の存
 小〜〜と示と

一 句と来の用捨并ぬ義古義の悦いふ合と異
の口変との中をもけたり乃好士知るは有
〜に筋板とせうれ自のえ自の〜いお
粗と〜と〜とい〜をわ〜の種花
値に此〜一家の秘文と傳〜後学
乃龜鑑とん

一 曰季子其詞と世田の四月より十二日
二千八百十ヶ条〜と補〜得和
就字乃季子に用字異名のた〜い又面
二ヶ条と〜と合〜と子二百十二ヶ条と

な〜校又季の詞に初ん乃毎〜
あるゆい後書に考〜の下に和語の注釈
と加〜その百五ヶ条と〜と
一世たおかく切字と〜と
季子の詞とせ〜に並〜候令乃遊考
れ〜愚拙の物〜に先〜と〜と求
唐尔のな〜と字と殊〜は南洲の系地
時候乃進進〜季の詞とゆるに〜
何小おて〜や思〜先〜を
さゆ〜今此例小解〜切字と〜

一 増字あり〜患く後へは并に舊本二百七
 十と新換百五十五字合又百廿五之
 一 編乃又新才之新てふし等の段に婦少路友
 傳宗籍紹巴蜀海ホ乃更月とふくま紙の
 一 引句小語と志〜し
 一 玄極の少語いけ乃先哲語〜垂道〜代
 一 小語作何〜しとを極中極永貞徳
 一 系傳文の〜ふ〜多考あり〜道中
 一 秘〜れ〜書善紙 弘長寺末考世
 弘長寺末考世

補少心知字抄江戸海え 極 西長 嚙 立圃 日 大令
 日 同 綱 同 日 西 森 一 吉 仕 屋 了 元 隣 合 字 一 吉
 世 活 燒 立 乳 物 子 立 乳 酒 了 家 立 圃 乳 母 傳
 母 立 乳 明 鏡 立 圃 修 船 極 聖 了 立 圃 立 圃 中
 家 珠 書 舞 施 厨 凡 俗 系 羅 細 家 立 圃 社 中
 記 家 傳 鐘 每 隨 筆 以 筆 而 氏 補 日 元 隣 家
 書 日 古 々 連 珠 日 用 之 凡 俗 追 加 抄 本 字 等 の 流
 之 之 心 之 流 他 近 年 板 の あり ます 近 年 板 の あり ます
 系 層 本 の ところ しい 流 と なる 旧 本 あり ます 河 野 教
 子 九 百 八 十 六 字 新 換 の 句 七 百 廿 一 合 々

く早とやいふ及く此と云ふものも子にせ誠と
凡月の流えし梅ゆ衣ふに怪詠乃あさくう
と述とつとを裏小の世を運運の世をあらうと
りとのねに合なり古人を制するも海ふりり
先哲をよと用るのわう然とあてもよくて味
とくさくさくわりし

歌ハ朽らと枝あり 又哥の字を用るも
永言从二可長引其声以誦之也 説文小歌ハ詠也長引
其声以誦之也也 誦之也也 誦之也也 誦之也也
其声以誦之也也 誦之也也 誦之也也 誦之也也

原一師範のけおにあらせや古今乃あさくとも
に書きしつ傳文七

句と求え乃用終

おろと句と設系の用終のりもあえよせり
あさく不夜くPのねくくとを又く再終
終一とと句と葉と終ふ大切なりあひけりせん初ん
の程に清さより清さに葉一入る一已達の後
深さより清さに葉一おる一是を
乃あさく一に終一掃りゆくは初んの海ら
つたんと葉れうつたあいまる常のりり

とはなすふねはふいほの統ニシいと中やしくよふなるさ
やらんをましくに答コタて云イハクつむは統シモモさやうするさ
あらしにまとい人の方ヨロシ乃ナすと同トヒ結ヒらんふあめいしを
糸イトほまのひえきく何ナニとらふぬヒしと定サダちあつた
うしー統トウをもぬさく長ナガありて志シもものこころ
あらしをわくさくあめのかさぬくの姿スカタとんより長
世ヨふふはるすもさうなまの例レイの癖クセよかしくええて
いふよりせらうしあひく又同トウんのかく竹タケ傳ツタはりよう
おや又初ハツメのよきさうまをさうさや答コタえけりる人
さぬくま統トウふかぬくも好コト実マコトのさうはし結ヒるにあり

らしくりぬさほ毛モウ非ヒに西ニシ給シまふ小コ付ツキらぬのハシ結ヒ結ヒあ
あつたに又マタいふ玄ゲン妙ミョウ小コ付ツキりる初ハツメあられ立タとあやな
らぬいたてさうか長ナガ又回トウ初ハツメんの人ヒト乃ナ再マタあもよく
固キコえさうた探サウまあむむさあ又再マタをさうりよ
活キくさうさや答コタえ諸シヨ近キン人ヒト身ミ義ギ横ヨウ神シン明メイく人ヒトあ
さうより面オモモ白シロうらんを印インをさ小コあらし再マタをさあふに
さうさくも二ニ義ギ長ナガ七シチ塔トウ總ソウの位イにありく再マタとさあ
さうさく乃ナ理リとさむさうさも省シヨウ七シチ初ハツメんの人ヒト乃ナ作サクさ
さえに目メ見ミるかたの悔ヘイ小コ邪ジャ法ホフ入イるさうさくさう
らめ邪アスカイを井イの垂アヒ桐キ小コあらし人ヒトのよむんつみとら

福やせ返答よとのいひゆく業しくやしく後付も
やがし一ひいしを辨揚よ受し付も又同入の衆人
を信する一府と信よみふ人教の弁よてふとんやあお
やひうかく或いさうめいあを見んといんのもや答えん
のあふめきたるそ一症よのさうい毎交に制一の
あふ庵よ子地をめいひさうい対面し又んを志す
さあふよやそあかりあふ是非を教しゆくあふ
を優あしひいさうとくま付さるんそ何の地獄の人地あ
やまりふいあつくもれし又さあめいひのさうい能くあふ
少い執筆のよま教を付らんさあふぬさうあひを筆

志乃あやまらぬし又官序のたふと好むありうらうらとこ
のむ人ありしことと是や何事と非もんや答えん
にまふ付るやうに辨揚も強にさうい定さるる
成へし大業院一宗親主入本れりしとあをりしとあふ
序くし書んて筆を繕ふて書しとさうい
よりくももまにけをへ一切うくあふんはいつよ
く明んとて筆と紙あつらめくあふく業とつらひ
ふい根藉あふさうい強くいんしあめいひのさうい
道邪見といふ人とあはれよこの四綱法あふさうい
なうやあいつらう一巻の懸綿やあふさうい

あかしくし人丸いともくす人赤人めとやうこの 様丸

こころ教くくハ黒い ちんはくくもくく 明丸

是と篇序歌曲流の六義とんか一字くに行そ

るのびるもくくあひ志ふくく 寂蓮法師乃結

おも是と用ひくくもくくやれ家くくにうりく太

乃五義もくくりりたり 曲歌法師を 序體腩偏

流とくくくハるのほく右流ホあるひ

あくくもくく縁うらわうくく 飛うりの教くくへんも

秋の夜を月

惜流支歌後

かみく乃くくくもくく楯の言くくれくくあ

せこのくくくくくくく

惜序歌曲説

かそひおふとれくくのふくくくくくく

序歌支曲後

あはくくくくくくくつまんとかくくく

ここのくくくくくくくくくく

紀考くくくく 標流支曲證やめくくく

ると面白くいつかを後真と申す七法神のいふく心
 義小之見今之義蝶於媚諛取善古事以之喻今
 に真とい毛詩一多とあり多とありといふ彼
 こそにあまゝかある真とたふとて中し宗祇の
 いふ凡此真の二つは方々の説とて凡月
 かれ真といふか又云比にあくは真をかく
 統たるかとその真とれといひ出く懐くれ
 たるかむとてあつたてありはたして多と
 とよりいふ蝶於媚諛也人と也小やむと
 つるに似るといふは深く深の是偽りれ真の
 字と御声とれたるは之新儒ハ平土声と起
 ともち也西狩と海とをいひといふもたふんある
 のもやまの畢竟同とて人教信於世とのり
 又月雨の松月谷乃
 とらふとつて是はまのふゆありけぬとて人か
 中しとて真の句を長とて今宗祇の疑
 春月とあはれはる柳か
 各川の香の柳や露のら
 此の句をいふもの多とて真あるていふ
 たりされいふこと

るまの糸の掛尾 紫乃こもらぐ 貞徳
とをかへし 多とりあいの内付介 季吟
帯本やサ所 一の枚の色 鷺水

こまらぐやらのこもらぐ

雅 八雲の抄おしく 雅のまじこをあらり古今

これらるれそのかりしと云く定家等のいしく

雅のまじりしと云くまじりしと云くまじりしと云く

まじりしと云くまじりしと云くまじりしと云く

まじりしと云くまじりしと云くまじりしと云く

まじりしと云くまじりしと云くまじりしと云く

まじりしと云くまじりしと云くまじりしと云く

まじりしと云くまじりしと云く

春のまじりしと云くまじりしと云く

まじりしと云くまじりしと云く

まじりしと云くまじりしと云く

まじりしと云くまじりしと云く

まじりしと云くまじりしと云く

まじりしと云くまじりしと云く

まじりしと云くまじりしと云く

まじりしと云くまじりしと云く

うねぬ^{カルカミ} 勢^カとしてあふ^カ 宗祇^{ソウキ}のい^カ
勢^カに似^ニては^カうあ^カ 宗祇^{ソウキ}のい^カ
るい^カ 勢^カの政^{シヨウ}と^カう^カ あり^カ 宗祇^{ソウキ}のい^カ
雅^カの引^カう^カ

夏^{ナツ}のあ^カと^カ花^{ハナ}の^カ林^{ハヤシ}の^カあ^カう^カ

と^カう^カと^カあ^カう^カと^カあ^カう^カと^カあ^カう^カ
と^カう^カと^カあ^カう^カと^カあ^カう^カと^カあ^カう^カ
と^カう^カと^カあ^カう^カと^カあ^カう^カと^カあ^カう^カ
と^カう^カと^カあ^カう^カと^カあ^カう^カと^カあ^カう^カ

い^カ川^{カハ}と^カい^カん^カふ^カう^カに^カあ^カう^カあ^カう^カ
あ^カり^カや^カと^カい^カん^カふ^カう^カに^カあ^カう^カあ^カう^カ

あ^カう^カと^カい^カん^カふ^カう^カに^カあ^カう^カあ^カう^カ

鳳^{ホウ}凰^{オウ}を^カい^カく^カよ^カの^カい^カく^カよ^カの^カい^カく^カよ^カ
真^{マコト}徳^{トク}

い^カく^カよ^カの^カい^カく^カよ^カの^カい^カく^カよ^カ
季^キ吟^{ギン}

目^メに^カ威^イと^カあ^カう^カの^カあ^カう^カの^カあ^カう^カ
驚^{オドロク}水^{ミヅ}

予^ヨり^カ句^クい^カえ^カに^カ年^{ネン}池^チの^カ言^{コト}水^{ミヅ}の^カあ^カう^カに^カあ^カう^カ
編^{ヒム}

荷^{ナリ}を^カ網^コの^カい^カく^カよ^カの^カい^カく^カよ^カ
人^{ヒト}

頌^{ホメ}八^{ヤクモ}を^カ抄^{セウ}の^カい^カく^カよ^カの^カい^カく^カよ^カ
不^フり

て^カ神^{カミ}に^カ告^{ツク}家^カ世^セ定^{テイ}家^カの^カ云^ク頌^{ホメ}の^カ神^{カミ}の^カ告^{ツク}家^カ
之^ノ

頌^{ホメ}よ^カ又^{マタ}讚^{サン}頌^{ホメ}歎^カの^カあ^カう^カの^カあ^カう^カ
目^メが

神乃ちまゝにこととや代の家格

としつと引くありとま定家郷のいづれ家格

法師乃親をまゝと叶るれやとて誹諧とと家

書いの白れんくまゝにひつら

信めまは是を花格をまゝとてか 貞徳

冥加も統か宿よめや光と少浪目立 季吟

拂ふ氣よ神をえぬに世言うれ 鷺水

右の説と引くのまゝにけよりく名乃義ととる

あゝとてはけよいとくおまをち義のこゝち區なる

せりともえはた乃真義ハ哥連誹とをふして凡の

一字に終つてけり

四季詞

正月

くまの月 け月ハ親疎とていふ

とつと下界して ちる月 ちる月とて人の子の親

むつととてを ちる月 ちる月とて人の子の親

しつととてを ちる月 ちる月とて人の子の親

け月ハ親疎とていふ け月ハ親疎とていふ

け月ハ親疎とていふ け月ハ親疎とていふ

け月ハ親疎とていふ け月ハ親疎とていふ

け月ハ親疎とていふ け月ハ親疎とていふ

叙位 京官深目とて京中友達のアラミナセチ 七日の陽のなごも
白馬宗義 のまはのちのま

七月七日 白鳥とて又まはりの内乃神もとのそとあり ラニタラシ
牧三吉とてとて三七七一とて他は官卒の比古始る ハコ

七月 人目 ヒトメ 神のせられり ヒトメ 神のせられり ヒトメ 神のせられり ヒトメ

七月 霊辰 レイジン といふなり ヒトメ 神のせられり ヒトメ 神のせられり ヒトメ

七月 帳小貼 チヤウセウチ 七日の夜ふりんとて ヒトメ 神のせられり ヒトメ 神のせられり ヒトメ

七月 面写突 オモテツキ 七日の夜ふりんとて ヒトメ 神のせられり ヒトメ 神のせられり ヒトメ

七月 御齋會 ミイワイ 八日の夜ふりんとて ヒトメ 神のせられり ヒトメ 神のせられり ヒトメ

七月 志云院 シクニノ 八日の夜ふりんとて ヒトメ 神のせられり ヒトメ 神のせられり ヒトメ

七月 神 カミ 十日の夜ふりんとて ヒトメ 神のせられり ヒトメ 神のせられり ヒトメ

七月 女王 メグミ 十日の夜ふりんとて ヒトメ 神のせられり ヒトメ 神のせられり ヒトメ

七月 常陸 トウリク 十日の夜ふりんとて ヒトメ 神のせられり ヒトメ 神のせられり ヒトメ

のりく世を正しむるあり是の三子とてそらひらうて カミ 神のせられり ヒトメ 神のせられり ヒトメ 神のせられり ヒトメ

藤のまじりやめ よしの根白子 芥子花 あかしの 形大

らん梅 このまじり 白梅 香花又子 白梅

梅 紅梅 花梅 梅 梅 あしひら 川柳 川柳

柳 あしひら 柳 あしひら 柳 あしひら

果 あしひら 百千鳥 あしひら

本地の柳 あしひら 柳 あしひら

長閑 あしひら 柳 あしひら

子日夜 あしひら 柳 あしひら

松乃花 あしひら 柳 あしひら

柳 あしひら 柳 あしひら

予 あしひら 柳 あしひら

及能 あしひら 柳 あしひら

草辭 あしひら 柳 あしひら

春 あしひら 柳 あしひら

乃 あしひら 柳 あしひら

類 あしひら 柳 あしひら

芳春 あしひら 柳 あしひら

青春 あしひら 柳 あしひら

三春 あしひら 柳 あしひら

九春 あしひら 柳 あしひら

早春 あしひら 柳 あしひら

仁風 あしひら 柳 あしひら

惠風 あしひら 柳 あしひら

陽風 あしひら 柳 あしひら

和景 韶景 春ノ景ナリ 出所同上 良時 芳時 春ノ時ナリ 出所同上 淑節 節

麗景 四機活法ニ入静尤知一長 春光 治法ニ世間ガ當ル化衰 要

淑氣 在審言カ詩ニ一催黃鳥時光轉頰緑 應春 詩学大成

月正 百紫千紅照眼 同 青帝 楚辭ニ青

條凡 登歳謂之春時 青皇 同上治法ニ一 東君 唐子西カ詩

蒼天 春ノ天ナリ 勾芒 春ノ神ナリ 大皞 漢書ニ出タリ 青陽

武帝 纂陽 和 白居易カ詩ニ先遣 花蓋 夏侯湛賦ニ春

要ニ出タリ 山陽 前律舊志ニ出タリ其詞ニ一者東方 迎陽 立春

土牛 日莫辭春トツクレリ 絲燕 歲時記ニ立春ノ月未心ク絲

生采 齊人月令ニ九ツ立春ノ月食生 解凍 礼記月 葭

灰 揚景記ニ立春ノ日宜陽金門山ノ竹ヲ取テ管トメ 灰飛 詞モ

瑄 通 續漢書ニ出 新陽 詩学大成 微和 淵明カ詩ニ出

木德 隨ノ青帝歌ニ震官 初動 萃始 礼樂志ニ出 春生 律曆

タリ 春ハノナリ 物ノ動 歳始 公羊傳ニ出 梅 江梅 趙彦林カ杜詩ノ

嶺梅 同ク嶺ニアルク一ト云 活法ニ天賦由來異衆 官梅 官人ノ内

在少 陵カ詩ニ東閣官梅動詩典 野梅 野ニアルク 古梅 活法ノ古梅ノ

還如 徇途在揚列ナト、賦ニタリ 溪梅 夕イフ 糶梅 梅ノ名

谷己 千年曾見 庭梅 庭ニアルク 花 月明花 苔梅 苔ノ名

蟠梅 活法ノ詩ニ屈榦蟠株倚石根 月明花 苔梅 梅ヲ云也 飛

梅 雪ノ中ノ月梅 月夜ニ見ル 風梅 凡ニチル 烟梅 露ガマ霞ノ内ニ

狷梅一本アル 踏梅空カレコト 早梅早ハ柳子厚 红梅カ詩ニ出ハマサキ

梅ナリ紅ハ玉荊公カ詩ニ 幽香幽香ヨリ爰ニハ梅ノニホヒラズナリ但 清香清香ヨリ爰ニハ梅ノニホヒラズナリ但 新香新香ヨリ爰ニハ梅ノニホヒラズナリ但 暗香暗香ヨリ爰ニハ梅ノニホヒラズナリ但

浮香幽香ヨリ爰ニハ梅ノニホヒラズナリ但 浮香幽香ヨリ爰ニハ梅ノニホヒラズナリ但 浮香幽香ヨリ爰ニハ梅ノニホヒラズナリ但

目揚乃吳名目揚乃吳名 雪魂雪魂 冰魂冰魂 冰姿冰姿 雪骨雪骨 真珠真珠 水晶水晶 寶香寶香 素羅素羅 瓊瓊

五出活法ニ壽陽公 冰姿日 雪骨東坡カ句ニ羅浮山下梅花 真珠村玉雪爲骨水爲魂 水晶康溪詩話 寶香素羅 瓊瓊

皆活皆活 寒英 綴珠綴珠 南枝北枝 東坡東坡 水肌康溪詩話 素羅素羅 伯伯

夷拾林集 鶯鶯 黃鸝黃鸝 黃鳥詩經 黃鸝詩經 黃鸝詩經

新鶯李太白ク 流鶯土蒸カ 嬌鶯杜少陵 鶯鶯 鶯鶯 鶯鶯

同之のののの 鶴鶴鶴鶴 黃粟黃粟 留留 倉庚倉庚 楚雀楚雀 皆詩經

金衣公子開元遺 歌梅聖俞 歌韓愈カ 歌韓愈カ 歌韓愈カ 歌韓愈カ

二月の詞二月の詞 東福寺懺法東福寺懺法 泉列水洞寺の初年泉列水洞寺の初年 江列女妙手江列女妙手 獻生子獻生子 春春

釋奠釋奠 二月上丁日先聖先師孔子祭田と林あり乃 大原野系大原野系 大原野系大原野系 大原野系大原野系

二月一交の園二月一交の園 韓神系韓神系 大原野系大原野系 大原野系大原野系 大原野系大原野系

二月の詞二月の詞 東福寺懺法東福寺懺法 泉列水洞寺の初年泉列水洞寺の初年 江列女妙手江列女妙手 獻生子獻生子 春春

若神文の下の七百二十二丸の箱と多々
 年号と形とを以て天衣と主四年二月に始
 見上月を弁り知え外紀史なりやとの
 見冠と花とを以て大敵とあるはまこと
 一日比良の八つちり 萩に能 二月堂のおこをひ
 遺教發行 九日より十五日と申す七本松を
 佛乃別 二月の
 貞福寺雪楽々 積塔 十六日先考天皇の御宇白雲
 天下の首月とありて見しは傍友とありてつたまし
 色日向大隅藩に三つ玉の年号ありてはりく
 春の景 二月の
 社月 燕を以て春社と申す社月と申すは
 社日 社日の田家寺のらお務と云

浅る系 大まも 聖天 貝の凡
 中野田忌日 道明寺系 季の讀
 引奉りて傍友と云はれしはまこと
 の後 春の鷹 團と急を
 雀の子 雲雀 鶴の系

星鳥尚書二日中星鳥以四陽仲陽同上拾翠類書日暮小

花之時殷仲春トアリ二月也踏青類書纂要二月民俗推酒出郊游賞スルヲ

芳朱文公カ料峭武帝纂要春入和暎温和春

氣ノヲカニ萌動和暎ハルノ白ノアタ舒遲ハルノ日

ナル冲融蕩漾春ノ光ノ天鮮明春色ノア嫩緑春色

リナル微暖早春ノクニ淡晴天気ハレ

三月の詞

己の月己の月曲水の宴三日の席子

折ろく池花のとつり中へ結風を

小炊と山小鉄糸三月ひり北海七日花

寒令花の夜神花の花の花の

子雅花の花の花の花の花の

一月の花の花の花の花の花の

子雅花の花の花の花の花の

一月の花の花の花の花の花の

子雅花の花の花の花の花の

一月の花の花の花の花の花の

子雅花の花の花の花の花の

一月の花の花の花の花の花の

子雅花の花の花の花の花の

一月の花の花の花の花の花の

子雅花の花の花の花の花の

一月の花の花の花の花の花の

子雅花の花の花の花の花の

楊柳

さくらさくら

和布

柳屋

舟船

さくら

さくら

影

母

桃

さくら

さくら

山

家

やえ

さくら

さくら

さくら

田

人

さくら

さくら

さくら

い

え

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

さくら

竹秋 日浴 沂論語 飛絮 詩學大成 楊柳 落花 歐陽公

出夕 綠戰 紅酣 詩李白 催暮 杜甫 花信 歲時記

采華 唐詩 狂點 芳叢 徐玉泉 淡煙 濃綠 陳元

春色 芳菲 鄧春 隱力 艷陽 楊柳 詩 出 上巳の夜

上巳 續漢志 三月上巳 官民皆禊 飲於東流水 上巳 張衡

當世 只三月 用テ 上巳 用ヒ 徒重 三ノ名 ナルハ 元巳 南都

宋書 自魏 後 但用 三月 三月 不復 用 巳ト云ニヨリ

賦 出タリ 良辰 張華 上巳 芳辰 活法 上除 徐幹 詩 出

冠節 李 賦 清節 荀勗 上辰 宋書 令節 詩 出

新社 凡俗 通ニ 出 上巳ニ 福ヲ 祈ルノ 名也

青 簾 ありとせ 五月の月 更衣 白重

乃旬 一日 侍 翁と ちりく 上 在 ア に 多 くの 筑 唐 系 一日 孟 夏

あやとの 水 流 乃と あり 且 書 といふ あり 乃の 南 なる あり

と 小 村 あり 乃の 水 此 村 あり 乃の 罪 浄 入 げ 乃の 男 あり

乃の 教 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり

乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり

乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり

乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり

乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり

乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり

乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり

乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり

乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり

乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり 乃の 湯 あり

苦短謝天運流金蜀後主 端午詩 重午詩 蒲節艾節 艾節活法 艾節詩

佳節王大傳詩 端午歲時記 午節活法 蒲節艾節 艾節詩

類書纂重午 令節佳辰 活法天中 艾節詩

湯大載 懸艾尺牘 雙魚尺牘

六日の詞

六月の月極星の月 六月の月極星の月 六月の月極星の月

羽飯と代 飯と代一日 六月の月極星の月

七月の月極星の月 六月の月極星の月 六月の月極星の月

八月の月極星の月 六月の月極星の月 六月の月極星の月

九月の月極星の月 六月の月極星の月 六月の月極星の月

十月の月極星の月 六月の月極星の月 六月の月極星の月

十一月の月極星の月 六月の月極星の月 六月の月極星の月

十二月の月極星の月 六月の月極星の月 六月の月極星の月

神神 神神 神神

祇祇 祇祇 祇祇

例例 例例 例例

世世 世世 世世

家家 家家 家家

函函 函函 函函

入入 入入 入入

仲夏 夏ノ
藍川 楮 秋乃 挂香 竹古

仲夏 夏ノ
藍川 楮 秋乃 挂香 竹古

流月 夏ノ類

季夏 六月ノ月也
薰風 呂氏春秋

南風 孔子家語
長風 凡土記
酷暑 杜子美詩

暑 月令
三伏 三庚
逐涼

納涼 夏ノ
長夏 杜子美詩
火龍 火旗 王較カ苦

火 薛道衡詩
火稍西傾元陽
火龍 火旗 王較カ苦

波沸 僧密カ苦熱
北荷 杜南カ
蓮 類聚

睡蓮 同上
朱華 曹子建詩
蓋鏡 白雲

出 雲錦 丘瓊山カ
出 丹青 曹修古カ詩
出 菡萏 介雅ニ出

秋乃 詞ノ類

七月 八月 九月 十月 十一月 十二月

秋の 初涼 秋果 秋葉 秋風

乃 衣 柳 桐 楸 楸 楸

楸 待 露 水 七夕

乃 衣 柳 桐 楸 楸 楸

楸 待 露 水 七夕

乃 衣 柳 桐 楸 楸 楸

楸 待 露 水 七夕

乃 衣 柳 桐 楸 楸 楸

十六日大内へ 益の所と入 十六日伊勢山岡あり人毎にうづの
御と貢(きき) 出立しうく人の家つと入くたれた也

とるる 八つゝ 安房の院 十五日今二二 解其子 花

火 あけけり 又、船のうらまき 地蔵宗 寺 さいや

栗 廿七日 みまき 精 定家おつあふりてやわのたれた

御霊奈の四出 十八日 相撲 徳島の徳川人とりあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

十六日大内へ 益の所と入 十六日伊勢山岡あり人毎にうづの
御と貢(きき) 出立しうく人の家つと入くたれた也

とるる 八つゝ 安房の院 十五日今二二 解其子 花

火 あけけり 又、船のうらまき 地蔵宗 寺 さいや

栗 廿七日 みまき 精 定家おつあふりてやわのたれた

御霊奈の四出 十八日 相撲 徳島の徳川人とりあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

御霊奈の四出 七月おまきひの幕とつあつた

片月 古人ノ詩ニ多用來ル
出所ヲ記スニ不及
海月 活法ニ海月當山夜
看雲起暮愁ナリ

好月 同詩ニ從來好月多雲妬何
向今宵是兩昏ト出タリ
淡月 陳去非野月
詩ニ出

城カ 山月 除四更カ
詩ニ出
秋月 謝明カ
詩ニ出
皓月 李太白カ
詩ニ出

名 冰輪 東坡カ
詩ニ出
冰鏡 謝莊カ
詩ニ出
金波 前漢志ノ註
詩ニ出

精淮南子 金精 河圖帝覽
詩ニ出
玉盤 李太白カ
詩ニ出
銀盤 盧
詩ニ出

合璧 漢書 玄兔 李周翰
詩ニ出
金環 梁天カ
詩ニ出
蟾兔 九經通考
詩ニ出

白シ是故ニ素娥トモ云ト 皓魄 李朴カ
詩ニ出
明蟾 陳藏一カ
詩ニ出
田蟾
詩ニ出

碧岩 雁 鴻雁 詩經疏ニ大曰鴻小曰雁
來雁 禮記月令
詩ニ出

雲雁 范彦龍 一雁 杜詩
宿雁 日
落雁 同
沙雁 杜
牧

カ詩 鳴雁 韓愈カ
詩ニ出
孤雁 杜詩
雁行 禮記ニ出タリ
雁ノツ

雁字 山谷カ
詩ニ出
雁乃ノ字カ
倉鳴 廣雅
詩ニ出
御蓋 淮南子
詩ニ出

換武 羊祐賦 來賓 月令
雁賓 杜詩
雁奴 王介甫カ
詩ニ出

雁塞 梁列記 回雁 郡國志
鴻毛 漢王褒頌
野性 活法
詩ニ出

野性去知寒暑 天倫 活法ニ天倫不矣
陳后 班超 同上
候ト作レリ

九月北朔 小田のり月 初のり月 子のり月
御炊 日

石燈圓の葉 七月不レ田の後モ
御炊 日

桐撲 八月 泉涌寺舍利 八日 重陽宴
九月の葉の花

のまんを好くすんげ奉陽と云ふ九は陽教のより
八月の月と九の月とを名付をとくす

三十日 九月スツ

花小月詞の秋

季秋 月令 菊秋 暮秋 晚秋 深

秋末 抄秋 以上類書纂要 商風 金風 素風

高風 涼風 悲風 以上元帝纂要 出 白雲 漢武帝秋

起兮白雲 琪樹 許渾詩 紅樹 法法 出 無射 月令 出 夕

潭清 烟疑 滕王閣序 出 樹落 荷衰 講憲 出 筇

場 詩經 重陽 佳節 東坡書 嘉節 韓退之詩

泛菊 風五記 桑落 杜詩 龍沙 千騎 權德輿詩

紫菊 艾菊 小雅 黃華 月令 雜菊 陶淵

野菊 以上事文類 殘菊 王荊公詩 日精 本草綱目 菊

治曆 介雅 黃金 杜詩 周盈 本草 金錢 玉錢

漁隱 黃白菊 朶朶 陸龜蒙詩 出 落英 楚詞

冬乃詞也 十月 無律月 叶月とくさつとさつと

んことくや又めら秋小十月の卦八純坤陽 葉つる後りく又下

にあぬんといふ交陽陰のくはるの氣かしく秋の氣を

すふとむげ月陽をたれる氣の時を月 ともを月 小春

あつたかきくもつるのとき 更衣 衣の衣指をその 孟冬旬一日

神 一日法林とわす 燧糟と名 日南楚の人 炉之灰と

お境 一日庭ふたの住人 漢子 蘇 以人ちよ

とわすのふあれと 亥子 蘇 以人ちよ 立冬の日

とわすのふあれと 亥子 蘇 以人ちよ 立冬の日

あめ立 多うし 村場始 五日 湯あり せせ

くたいれをそと射す 社のよをわひをそと射す の口射る人 湯は七 四の

子 納めとら 多うし 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり

達摩忌 廿十 夜会 仁 廿四より 真福寺 始 廿九

六日 維摩舎 十日 金毘羅祭 十日 彩旗 十三日 是

かり され しみ 煮い 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり

こころと 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり

十日 大社 神 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり

十日 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり

小雲の舞 十月 法橋寺 大祭 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり

かろり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり

のま 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり

月の霜 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり

湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり

湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり

湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり

湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり

湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり 湯あり

川より起るの情なり句中に字をとりあはるる
 たりと見字と發音はとのを示すとのを志
 則系と情なれ有端お摩しく章句の家
 人よりと私収とトけらる字眼より一字より
 二三字のめりいよと切字といふ割なり
 とや原古いしく如以切物苟取整致不顧
 短綴横やと書かんをまにまうらるのめり
 又七又の内いつくふとある切字といふもの入つて
 いそ一句と判別しと整齊なると他の例とあ
 りていさるる古魯の字と造るなり

長短屈曲から杖とつくりと井翰の層様とを
 能楹楹楠乃る分はめらるる
 徳とるの十六摩多乃悉息ふりり諸字大
 莊嚴の功と換へ十二点畫け楷書に母とる
 うとく切字といふ諫諧といひく句莊嚴なり
 あり又後後の乃小宋世之詩以為樂歎所
 通情お内切やあるを完といふ小校やとせ
 さるる切と去声のなへしやの級を又
 とあふたふやんをらく此人乃詩と道ふ句仲孫
 字の法あり支り物語を式ありと兩字相應

いづ	改 ^{ムツキ} 月 ^{ツキ} てふ ^{サレ} 元 ^{サレ} 池 ^イ いつ ^{ツキ} 道 ^{ミチ} の ^ノ か ^カ り ^リ 人 ^{ヒト} と ^ト は	与 ^ユ 彦 ^彦
いつ	富 ^{トヨ} 士 ^シ 塔 ^{トウ} 盤 ^{バン} いつ ^{ツキ} く ^ク 毛 ^{モウ} 名 ^ナ は ^ハ あ ^ア れ ^レ 川 ^{カハ}	立 ^タ 圃 ^圃
いふ	か ^カ く ^ク に ^ニ さ ^サ く ^ク さ ^サ ら ^ラ い ^イ ふ ^フ ほ ^ホ も ^モ く ^ク さ ^サ ら	甘 ^{カン}
いさ	子 ^コ 令 ^{レイ} ま ^マ い ^イ さ ^サ ふ ^フ あ ^ア れ ^レ の ^ノ ふ ^フ ら ^ラ い ^イ ふ	糸 ^{イト} 立 ^立
いけ	世 ^ヨ の ^ノ 中 ^{ナカ} い ^イ つ ^ツ と ^ト さ ^サ く ^ク 橋 ^{ハシ} を ^ヲ さ ^サ く	昌 ^昌 立 ^立
い川	花 ^{ハナ} も ^モ と ^ト 鳴 ^ネ き ^キ つ ^ツ ら ^ラ つ ^ツ さ ^サ く ^ク さ ^サ ら	香 ^{カウ} 立 ^立
いふ	つ ^ツ こ ^コ の ^ノ け ^ケ こ ^コ く ^ク く ^ク い ^イ う ^ウ そ ^ソ う ^ウ は ^ハ は ^ハ と	名 ^ナ 立 ^立
あふ	晴 ^{ハレ} 役 ^{ヤク} の ^ノ 点 ^{テン} あ ^ア ひ ^ヒ い ^イ な ^ナ さ ^サ く ^ク さ ^サ ら ^ラ い ^イ ふ	立 ^タ 圃 ^圃
あふ	交 ^{カウ} の ^ノ 夜 ^ヤ あ ^ア ら ^ラ い ^イ や ^ヤ く ^ク 世 ^セ の ^ノ 月 ^{ツキ} の ^ノ う ^ウ	同 ^{ドウ}
あふ	本 ^{ホン} 乃 ^ノ 母 ^ボ と ^ト さ ^サ ら ^ラ い ^イ さ ^サ ら ^ラ く ^ク 花 ^{ハナ} の ^ノ う ^ウ	交 ^{カウ} 友 ^{ユウ}

らん	あ ^ア く ^ク 味 ^ミ の ^ノ あ ^ア ら ^ラ い ^イ ふ ^フ 子 ^コ 世 ^セ と ^ト い ^イ ひ ^ヒ さ ^サ ら ^ラ い ^イ ふ	盛 ^{セイ} 之 ^之
川	吉 ^{キチ} 野 ^ノ の ^ノ 川 ^{カハ} を ^ヲ あ ^ア ら ^ラ い ^イ ふ ^フ さ ^サ ら ^ラ い ^イ ふ	改 ^{カイ} 也 ^也
ぬ	花 ^{ハナ} い ^イ さ ^サ ら ^ラ い ^イ ふ ^フ さ ^サ ら ^ラ い ^イ ふ ^フ さ ^サ ら ^ラ い ^イ ふ	香 ^{カウ} 立 ^立
下 ^ケ 知 ^チ	名 ^ナ 月 ^{ツキ} い ^イ ふ ^フ さ ^サ ら ^ラ い ^イ ふ ^フ さ ^サ ら ^ラ い ^イ ふ	名 ^ナ 立 ^立
あふ	く ^ク も ^モ あ ^ア ら ^ラ い ^イ ふ ^フ 名 ^ナ 代 ^{ダイ} の ^ノ 秋 ^{アキ} 乃 ^ノ 月 ^{ツキ}	立 ^タ 圃 ^圃
よ	か ^カ つ ^ツ と ^ト あ ^ア ら ^ラ い ^イ ふ ^フ 教 ^{キョウ} 生 ^{セイ} と ^ト い ^イ ふ ^フ 廉 ^{レン} 唱 ^{テウ} 料 ^{リョウ}	立 ^タ 圃 ^圃
へ	花 ^{ハナ} い ^イ さ ^サ ら ^ラ い ^イ ふ ^フ さ ^サ ら ^ラ い ^イ ふ ^フ さ ^サ ら ^ラ い ^イ ふ	炭 ^{タン} 立 ^立
る	つ ^ツ ら ^ラ の ^ノ い ^イ れ ^レ い ^イ ふ ^フ さ ^サ ら ^ラ い ^イ ふ ^フ さ ^サ ら ^ラ い ^イ ふ	白 ^{ハク} 立 ^立
	八 ^{ハチ} 等 ^{トウ} 乃 ^ノ 降 ^{カウ} と ^ト い ^イ ふ ^フ さ ^サ ら ^ラ い ^イ ふ ^フ さ ^サ ら ^ラ い ^イ ふ	立 ^タ 圃 ^圃

せ ハルヒ へくしのこちやういやくのこ

法眼 志美

け イッリ いちぢうのこちをきくはひい

宗徳

一句 イッリ 下知

やあ志ううく死不對く後ひ

維舟

いひ イッリ へく

聲ことおつひのかわる廉の聲

と イッリ まう

春らう松葉はう心とやううん

伊表 信徳

全 イッリ 妙切

人 ヒト 通一 イッリ 死や浮世とあうん

日

大 イッリ まう

あふ イッリ 一 イッリ ち イッリ 花月のこくむ

三 イッリ 字切

音 イッリ 今 イッリ 新 イッリ 花乃 イッリ 本 イッリ 子 イッリ 餅 イッリ 中 イッリ 花

三 イッリ 字切

志 イッリ う イッリ 何 イッリ と イッリ 回 イッリ へ イッリ び イッリ く イッリ け イッリ ぬ

玄圃

二 イッリ 字切

何 イッリ と イッリ も イッリ 名 イッリ や イッリ と イッリ 名 イッリ 知 イッリ 家

徳え

後 イッリ と イッリ り イッリ の イッリ 句

後 イッリ 梅 イッリ の イッリ 結 イッリ ぶ イッリ と イッリ り イッリ ん イッリ 花 イッリ 乃

光弘

字と一字をくく句

あらわしけり乃も人花ひる

一句あ〜

中〜に思〜ふ〜月〜の〜

唯一字除十八かと神祇の思成神祇の終る
神の多に付くといひ物ると云へる神祇といふ
流るの切〜すち〜く〜わ〜れ〜と〜え〜る〜も〜天〜の〜意〜を〜合〜は〜と〜う〜こ〜り
あせよと云はれ〜と〜機〜を〜え〜と〜扱〜る〜の〜は〜さ〜れ〜い〜他〜傷〜は〜も〜事〜臨〜末
〜分〜と〜し〜と〜し〜て〜戀〜わ〜る〜連〜致〜とい〜ふ〜は〜上〜恋〜の〜か〜と〜ま〜う〜ら〜ふ〜は
乃のの句と〜戀〜わ〜る〜連〜致〜とい〜ふ〜は〜上〜恋〜の〜か〜と〜ま〜う〜ら〜ふ〜は
述懐〜こ〜よ〜む〜あり〜懐〜舊〜い〜り〜と〜何〜れ〜と〜い〜ふ〜は〜上〜恋〜の〜か〜と〜ま〜う〜ら〜ふ〜は
ハセリ 世の中の時〜い〜ふ〜は〜上〜恋〜の〜か〜と〜ま〜う〜ら〜ふ〜は
を〜か〜か〜れ〜去〜の〜を〜こ〜に〜神〜あり〜と〜ゆ〜ふ〜は〜上〜恋〜の〜か〜と〜ま〜う〜ら〜ふ〜は

ひ〜の〜文〜字〜と〜つ〜れ〜ま〜へ〜と〜ま〜と〜と〜約〜や〜り〜季
は〜遠〜え〜に〜切〜字〜く〜や〜に〜る〜へ〜

神祇考

天光〜ノ〜茅屋〜 如椽木
拍子 板枕 忌竹 火焼屋 俊水
本流 斎行 氏系
忌解 斎砂 火焼 血忌 室籠
洗米 巫神子 齋出 禊 禊

非人 長分

公オホキミ 人ヒト 入イリ 通ツウ 山ヤマ 娘メカ 人ヒト 長ナガ 老ヲシ 一ヒト 家イヘ
 六ロク 款クワン 寺テラ 以ヨリ 難ナニ 式シキ 法ホウ 仕シ 典テン 茶チャ 下ゲ 戸ド 眷ケン 屬リョク
 社シヤ 所シヨ 橋ハシ 娘メカ 家イヘ 天テン 下ゲ 外ケ 科カ 二ニ 人ヒト 七シチ 人ヒト 小コ 眷ケン 屬リョク
 作シヤク 大オホ 智チ 人ヒト 形カタ 百ヒャク 姓セイ 以ヨリ 終シユウ 大オホ 工コウ 伽カ 羅ラ 多タ 名ナ
 終シユウ 身ミ 痲マ 盲マウ 代ダイ 官カン 月ツキ と 友トモ 花ハナ と 妾メカ 酒サケ 小コ 解ゲ 湯ユ
 所シヨ 屋ヤ 同ドウ 付ツケ 侍シ 增ゾウ 依ヨ 係ヘイ 娘メカ 結ツ 回ケ 娘メカ 東トウ 寺ジ 和ワ 尚シヤウ
 私シ 一ヒト 族ソク 新シン 兵ヘイ 元ゲン 文ブン 庇ヒ 生セイ 地チ 以ヨリ 取ク
 名ナ 本ホン 更マシ 橋ハシ 書ショ 肩カ 周シュウ 暖ナン 暖ナン 極キョク 之シ 味ミ 建ケン
 月ツキ 強キヤウ 月ツキ 入イリ 明メイ 方ホウ 五ゴ 的テキ 所シヨ 晴ハル 東トウ 寺ジ 和ワ 尚シヤウ

花の月

灯トウ 燈トウ 籠カゴ 漁イサ 火ヒ 花ハナ 火ヒ 盆ハシラ 文ブン 床トコ 籠カゴ 燭ソク 又マタ
 夜ヤ 新シン 狐キツ 致チ 意イ 鷄ニ 別ワカ の 鳥トリ 籠カゴ 野ノ 飯イハ 及キ
 片カタ 炭タン 善ゼン 果カ 晚マン 之シ 二ニ 音オン あり 福フク 福フク 寺ジ 新シン 兵ヘイ 元ゲン 文ブン 庇ヒ 生セイ 地チ 以ヨリ 取ク
 繩ツナ 繫ケル 道ミチ 火ヒ 附ツケ 記キ 象ゾウ 淨ジユウ 村ムラ 無ム 枕マク
 硬コウ 持チ 增ゾウ 有ユウ 真シン 淺セン 大オホ 文ブン 字ジ 灯トウ 照テウ 射シャ 人ヒト 形カタ 天テン 下ゲ 外ケ 科カ 二ニ 人ヒト 七シチ 人ヒト 小コ 眷ケン 屬リョク
 固コ 籠カゴ 灯トウ 天テン 下ゲ 外ケ 科カ 二ニ 人ヒト 七シチ 人ヒト 小コ 眷ケン 屬リョク
 那ナ 夜ヤ 之シ 細ホソ の 月ツキ 籠カゴ 家イヘ 中ナカ 暖ナン 暖ナン 極キョク 之シ 味ミ 建ケン
 芦アサ 火ヒ 泊トク 者モノ と 待マツ 月ツキ 夕ユフ 月ツキ 夜ヤ 四シ 方ホウ 燭ソク 寺ジ 新シン 兵ヘイ 元ゲン 文ブン 庇ヒ 生セイ 地チ 以ヨリ 取ク
 床トコ 山ヤマ 伏フク 一ヒト 香カウ 酒サケ 禱イハヒ 電デン 有ユウ 果カ 五ゴ 的テキ 所シヨ 晴ハル 東トウ 寺ジ 和ワ 尚シヤウ
 泊トク 舟フネ 新シン 納ナツ 今イマ の 月ツキ 映エイ 燈トウ 五ゴ 的テキ 所シヨ 晴ハル 東トウ 寺ジ 和ワ 尚シヤウ

わしつら屋さんとわしつら屋さん

秋乃こゝろと秋乃こゝろ

借月まうに

燈火やせに

見いあとう川からにをぬくといえもせにりり

とあふをありきるといふこゝろをせし

秋の洞とやあ

さむさむと夜更の月お冬に

いふいとあへさ隣子うらみ

これいふふはよさうてこのこゝろもいふこゝろ

るをたとさくやこの花とりあつととつり

焚くものこゝろと

惣然とをこゝろつらにかり

君お癒し山より志こゝろ

この花のうらむ威丈人としてあひの節り呂太石の

後に一乃ち子ありをれをををを捨て二のち子

小波節のまじり有しつら陸良志后とんとあえ

せしそまうり高山といふお小刺こゝろり居くこゝろ

此君せともおさうり東園云宜明夏廣云角屋さん

生後雲雲子なるといふ人の笑人と君く一のち子

ふらふら かまきりうらふらうら かまきり
衣 衣の字にあらま 衣の字にあらま 衣の字にあらま
子二 子二 子二 子二
家 家の字にあらま 家の字にあらま 家の字にあらま
陰 陰の字にあらま 陰の字にあらま 陰の字にあらま
又 又の字にあらま 又の字にあらま 又の字にあらま
の の字にあらま の字にあらま の字にあらま
あ あ あ あ
七 七 七 七
神 神 神 神

萱 萱の字にあらま 萱の字にあらま 萱の字にあらま
か か か か
神 神 神 神
冠 冠 冠 冠
川 川 川 川
月 月 月 月
名 名 名 名
井 井 井 井

玉水 つりあま 形極 つりあま 長雨 ながあめ のやれ のやれ 子葉 こえ 後 あと

かま かま 竹 たけ 香 かほ 増 ま 杖 つゑ 暖 ぬる 葉 は

乃字 のじ 軒 のき 親 おや 除 のぞ 老 おや

老 おや 親 おや 杖 つゑ 暖 ぬる 葉 は

老 おや 親 おや 杖 つゑ 暖 ぬる 葉 は

老 おや 親 おや 杖 つゑ 暖 ぬる 葉 は

老 おや 親 おや 杖 つゑ 暖 ぬる 葉 は

老 おや 親 おや 杖 つゑ 暖 ぬる 葉 は

老 おや 親 おや 杖 つゑ 暖 ぬる 葉 は

老 おや 親 おや 杖 つゑ 暖 ぬる 葉 は

老 おや 親 おや 杖 つゑ 暖 ぬる 葉 は

老 おや 親 おや 杖 つゑ 暖 ぬる 葉 は

老 おや 親 おや 杖 つゑ 暖 ぬる 葉 は

老 おや 親 おや 杖 つゑ 暖 ぬる 葉 は

老 おや 親 おや 杖 つゑ 暖 ぬる 葉 は

老 おや 親 おや 杖 つゑ 暖 ぬる 葉 は

老 おや 親 おや 杖 つゑ 暖 ぬる 葉 は

老 おや 親 おや 杖 つゑ 暖 ぬる 葉 は

老 おや 親 おや 杖 つゑ 暖 ぬる 葉 は

老 おや 親 おや 杖 つゑ 暖 ぬる 葉 は

老 おや 親 おや 杖 つゑ 暖 ぬる 葉 は

老 おや 親 おや 杖 つゑ 暖 ぬる 葉 は

老 おや 親 おや 杖 つゑ 暖 ぬる 葉 は

老 おや 親 おや 杖 つゑ 暖 ぬる 葉 は

凡品小 凡二 凡鈴風流 凡小二 葺 名ありあふいけり

増 歩 将基の約乃歩あり

あさり 人備ふれに 畫 人と筆致ふり

富古乃書 眞法叙くのこく

に髪と極め五身り

後字長にあり

侍く家も

の代ふ

仲と

ク世

元隣

角の

おさ

書

本 二つ

白

此

本

公

九

九

九

九

九

みほもろあまゑ
二のさるゑし
五つ 接発 五つ
あまゑ 五つ
あまゑ 五つ

さぬ 一のさるゑし
二のさるゑし
三のさるゑし
四のさるゑし
五のさるゑし

しん 二のさるゑし
三のさるゑし
四のさるゑし
五のさるゑし

さる 二のさるゑし
三のさるゑし
四のさるゑし
五のさるゑし

寺 二のさるゑし
三のさるゑし
四のさるゑし
五のさるゑし

の 二のさるゑし
三のさるゑし
四のさるゑし
五のさるゑし

の 二のさるゑし
三のさるゑし
四のさるゑし
五のさるゑし

の 二のさるゑし
三のさるゑし
四のさるゑし
五のさるゑし

の 二のさるゑし
三のさるゑし
四のさるゑし
五のさるゑし

の 二のさるゑし
三のさるゑし
四のさるゑし
五のさるゑし

の 二のさるゑし
三のさるゑし
四のさるゑし
五のさるゑし

衣 二のさるゑし
三のさるゑし
四のさるゑし
五のさるゑし

の 二のさるゑし
三のさるゑし
四のさるゑし
五のさるゑし

の 二のさるゑし
三のさるゑし
四のさるゑし
五のさるゑし

の 二のさるゑし
三のさるゑし
四のさるゑし
五のさるゑし

の 二のさるゑし
三のさるゑし
四のさるゑし
五のさるゑし

の 二のさるゑし
三のさるゑし
四のさるゑし
五のさるゑし

の 二のさるゑし
三のさるゑし
四のさるゑし
五のさるゑし

の 二のさるゑし
三のさるゑし
四のさるゑし
五のさるゑし

の 二のさるゑし
三のさるゑし
四のさるゑし
五のさるゑし

の 二のさるゑし
三のさるゑし
四のさるゑし
五のさるゑし

の 二のさるゑし
三のさるゑし
四のさるゑし
五のさるゑし

も

おと

西とくくまへー

そ解

中の一と下大のまう

おまふ

鳥の羽の内子二つを乃おまふ二つとてえうと二つ

紅

おまふ

鳥の羽の内子二つを乃おまふ二つとてえうと二つ

おまふ

鳥の羽の内子二つを乃おまふ二つとてえうと二つ

おまふ

鳥の羽の内子二つを乃おまふ二つとてえうと二つ

おまふ

鳥の羽の内子二つを乃おまふ二つとてえうと二つ

おまふ

鳥の羽の内子二つを乃おまふ二つとてえうと二つ

おまふ

鳥の羽の内子二つを乃おまふ二つとてえうと二つ

おまふ

鳥の羽の内子二つを乃おまふ二つとてえうと二つ

おまふ

鳥の羽の内子二つを乃おまふ二つとてえうと二つ

鳥

鳥の羽の内子二つを乃おまふ二つとてえうと二つ

面皮

内裏のうらうら

鳥

鳥の羽の内子二つを乃おまふ二つとてえうと二つ

面皮

内裏のうらうら

鳥

鳥の羽の内子二つを乃おまふ二つとてえうと二つ

面皮

内裏のうらうら

鳥

鳥の羽の内子二つを乃おまふ二つとてえうと二つ

面皮

内裏のうらうら

鳥

鳥の羽の内子二つを乃おまふ二つとてえうと二つ

面皮

内裏のうらうら

鳥

鳥の羽の内子二つを乃おまふ二つとてえうと二つ

面皮

内裏のうらうら

鳥

鳥の羽の内子二つを乃おまふ二つとてえうと二つ

面皮

内裏のうらうら

鳥

鳥の羽の内子二つを乃おまふ二つとてえうと二つ

面皮

内裏のうらうら

鳥

鳥の羽の内子二つを乃おまふ二つとてえうと二つ

面皮

内裏のうらうら

鳥

鳥の羽の内子二つを乃おまふ二つとてえうと二つ

面皮

内裏のうらうら

百四十一

磨らるる奇異なる磨子
とよみ木子花とけ花をば
柯のきき籠もら所
七やこ花

麻 家 糸 巴 俣

沙 綱 色 綬 地 茶 好
魚 了 搬 好
のこ

車

陽 陰陽 陰陽

光 夕光 行 一 番
名 芳 子 彦 備
ら 吉 昏 物
う の 洋 梁
張 梁 防 際

廟ウツ堂ウツの廊ウツ 高タカ人タカ

原ハラ字ジ 英エ 英エ

更マシ 程チヨウ 生シヨウ

鳴ナリ 鷓鴣セウコウ 好コウ 法ホウ 大ダイ 唐タウ

のノ 着チヤク 目メ 加カ 成セイ 名ナ

兄ケイ 耕ケイ 系ケイ 共キョウ

丸マル 秋シュウ 流リウ 洲シュウ 舟シュウ 秋シュウ

様サマ 淋リン 倚イ 中チュウ 候コウ

候コウ 候コウ 候コウ 候コウ 候コウ

候コウ 候コウ 候コウ 候コウ 候コウ

候コウ 候コウ 候コウ 候コウ 候コウ

候コウ 候コウ 候コウ 候コウ 候コウ

候コウ 候コウ 候コウ 候コウ 候コウ

候コウ 候コウ 候コウ 候コウ 候コウ

候コウ 候コウ 候コウ 候コウ 候コウ

候コウ 候コウ 候コウ 候コウ 候コウ

候コウ 候コウ 候コウ 候コウ 候コウ

候コウ 候コウ 候コウ 候コウ 候コウ

候コウ 候コウ 候コウ 候コウ 候コウ

候コウ 候コウ 候コウ 候コウ 候コウ

候コウ 候コウ 候コウ 候コウ 候コウ

かきつねのしるしを又いふ家外苑をいふ歌
に山雲の給ふくちひ入るく月海と書はれに
ねんとと物乃知れいもにありしは今
うにらんこかくて何ん人しあはるに
接せり人知のたしと書にいふ
ね又句作のほりともあはる小あいてし
かれと書し季の句や思ひく何れも
えいし書ししるし

傳記のしるし

文城のしるし

落部乃給

何人乃書くみつる

部とまはれしるし
いれ句の表に書し
ふとしるし

神部乃給

部とまはれしるし

誓文抄と

拂ふし小神も是なり

歌ようつ文字うらな文字

ぐく 実字ハ押 鹿ホハ押 以モ免トシトモ
能クハハクハ

箕面 夜滝 應休計子需

続 少モモク 箕面 小隣野 少カ 野カ

夷講

カモシニ 祚あり乃目やえいと備 回

驛路朝市

晴 杠 柁 小旅 中ぬさる 草の市 回

待 恋

結 草也 繩の 隣子と叩みも 回

名紙ハ詩の詠物 一カモシハ
海 墨

卯辰月ハ中 一カモシハ
詩の心と 一カモシハ

莫 嘆 野ノ 店 無 肴 板 薄 酒 堪 沽 豆 英 肥

是 あり する 夢 之 に 一カモシハ 其 角

文乃心と 一カモシハ 何と 一カモシハ

讀 愛 蓮 説

目 盤 一 人 一 こと 心 道 の花 野 水

録 書 の 語 と 一カモシハ

乞とるく彼とあつて

くれと指繩いあひのくか 言水

彼とあつて乞とあつて

欲言もあつてのじいあつて思ひとて

了る

朔日やこ粒少くもゆめ 体分

或しとあつて

文西も筆の真かや世のち 望み

ふつとせしとあつて

敵しとあつてやえかたり 杜あ 夏月

くく強ゆる強

あつて思やうらりてる運座 望み

強者くくに居子強く勇と欺く恃強やとことく

争くじれと挑け矛とありてことほくもく

眼すにハ虎とも飛あをもく志くくつをく

いとわひあつて

何奴を路合に喰ふことり 國水

不戦くく勝つてを方すか念く一人

の敵ふあつてあつての奴や一表よ韓信く勝とく

くくかんあつていとあつてあつてあつて

世の勢と云ふはついでに人となる海

家の門をわきをふれ夫の下
たふ鈴音乃御かん世方八而お枝
字のつらぬをいづく言句れ示とん
向とら一強作摩生と云一とんやいん
いん底の海

知恩院の一重橋の吹ふり
そとへ日光の友乃才受と云くも
をめらぬ一文不わかん身にあり
心願しく俗耳初つの人と云く
信徳

あいのよくい知のにをせ筆始 踏水

井陸の懐電一同一の思ものらいさ
彼り家と親不と見親お波浪乃
煙かん書に生るる気色を南
ふしそ及いそめ形のそ具持り今
祈よ女つる筆は彼井井に
者つらぬ交結乃行行の御講
をわく連教入門の梅窓を
親ひ小いあさる七さ
やーをわきしあそそ人とさみ

子智もれし後小御談途親の撰車に把り
躬氏湯えんく先軍せん句朋友の心と並
包自の杜撰とをまじりて長頭ねむ此好と
論ふやうと見せし他の句所と奪集を掠りく
翻り句の意をや人乃名氏云かきりてもか
能と元くくややややややややややや
人面獸心若浅く根性よく見い又福
ましくもかきりてをまじりて若いも
やんれ角いり用ひらきしや睫の一まら
といく黄河の激流と拒く志ををばまら

先や吾道乃奥義の狂言狂言れあさく
に似れそを内秘菩薩の救世せん修と修
求りいの若因とるせん媒とを教乃申然と
よし世々此明哲の授受もはるいせめて又戒
十善のめてし此勅りくをせうめ他の擔板と
笑ひて自家乃屎楸と孫をばらわさる
さる一此有ふらうん短きをを
隨ちの國と句のどに誌し初学をを
心身とやとあーけんとあかりこ

和歌の詞寄

百一十一

これと布無とあり一月とあるは書法に依りて、
紙急紙のしつひありてむすの巻のあはれ
一標紙といふも布無とあるもたゞハ詩の
句兼句なりとて一字つゝとて月ひ又ハ
等此一句一章と截るもあはれひを
細といくのもすゝとてを悉賦とて
るのりあり角角さうり紙とて
人殺がと紙とすゝひらん
しつひふ入るて出と紙めんくよ
あめよりあつりある紙めんくよ

一子書といはれしはあつりて
あやもあれ節のあつりて
一め乃月之更衣いふ紙とて
一月といふもそて文の紙ふ
しつひもあつりぬ一更衣と
れんといふもあつりぬ一
紙の長紙の紙かといふ
紙の紙とてあつりぬ
紙の紙とてあつりぬ
紙の紙とてあつりぬ

いふ向とくは

一 楊花久薰といふ歌は毎春あはれんくはら

はく久一と心あやめあはくは

一 松葉若といふ歌あはれいふふん久又はくは

いふくは

一 長の名と残言やいつとを長ハシの歌なれとも御イハカ

しりぬきへい残言といふを乃コソしり残言ノコる言コト

しり長ハシの言コトといふを乃コソしり長ハシの言コト

いふくは長ハシの言コトといふを乃コソしり長ハシの言コト

いふくは長ハシの言コトといふを乃コソしり長ハシの言コト

一 隣梅トナリウメちよといふ一葉の隣トナリの字ジはくはくは

とけよい句梅ウメのうやう中ナカ極キョクはるく又マタ新ニホ澤タク

あへてえこりあへていふゆへいふかあへて

いふかあへて

一 野亭ノテイ野店ノテンとせよいふつを野ノたん家のイハのんを仕

いふくは

一 時トキあはれいふ一葉の起タケをう形カタは久ク乃ノ歌カなり

いふくは時トキあはれいふ一葉の起タケをう形カタは久ク乃ノ歌カなり

いふくは時トキあはれいふ一葉の起タケをう形カタは久ク乃ノ歌カなり

いふくは時トキあはれいふ一葉の起タケをう形カタは久ク乃ノ歌カなり

東栖ユキといひかたしつとすむすむつとらふし山家ヤマカといふ
 のんく山径ヤマノミチといふと山小室ヤマノコ居イとすむすむつとら
 ころ物つらと
 一宮カミといふありある人といふく物モノと道ミチといふ
 又といふ人といふく至勝シラフオキといふとふしつたの行
 とといふやうなり
 一社ヤタラといふ河津カハツといふ河津といふと社ヤタラの
 と句ク作サカクといふとといふと社ヤタラといふと
 有郷スイといふといふといふといふといふといふといふ
 人 案アヒといふ

けけ外いらくも是はれや等トウといふといふといふ
 たるはれといふは線センといふといふといふといふ
 名ありの条といふ梅ウメといふ小亭コテイといふといふといふ
 人といふ月ツキといふ乃乃ノノといふ乃乃ノノといふ乃乃ノノといふ
 毎といふ師シといふ立圃タテウといふ四式シキといふといふといふ
 のみといふといふといふといふといふといふといふ
 といふといふといふといふといふといふといふ
 といふといふといふといふといふといふといふ
 明メイといふの奥ウチといふと書カキといふといふといふ
 といふといふといふといふといふといふといふ

下、景もつゝ、いふ、宮方、以後、正、出、秋、い、く、
く、北、甲、子、と、う、も、あ、ち、ま、り、い、つ、く、は、い、ま、あ、い、く、

御溝水頭白梅園主鷺水



月夜園

篠殿

下、景、も、つゝ、い、ふ、宮、方、以、後、正、出、秋、い、く、
く、北、甲、子、と、う、も、あ、ち、ま、り、い、つ、く、は、い、ま、あ、い、く、
い、つ、く、は、い、ま、あ、い、く、

二編 欽園
公田 翰